

1. 市木地区の概要

平成30年1月31日現在、市木地区の人口は、441人、世帯数は201戸、高齢化率は44.7%となっており、少子高齢化が進んだ典型的な中山間農村地域である。小規模地区ながら保育園、小学校、公民館が各1つずつあり公的施設は充実している。また市木地区全体で一つの自治会（市木自治会）を形成しているため、連携が取りやすく結束力は非常に強い。

地区内には、西日本有数の瑞穂ハイランドスキー場があり、浜田道瑞穂インターチェンジがあるため交通の便が良く、邑南町の玄関口として都市部との交流を積極的に行っている。また農村地域であるため、神楽や田植え囃子などの伝統文化が根付いている。



公民館まつりでの田植え囃子披露

2. 事業の趣旨

市木地区では、高齢化率の上昇や独居世帯の増加に伴い外出しない高齢者が目立つようになり、孤独や孤立、その先にある引きこもりや孤独死などをどのようにして防ぐかが地域課題として上げられるようになってきた。

公民館では、地域づくりに熱心な方や地区内各種団体と連携し、高齢者が参加したくなるような行事を展開することで、地域間のコミュニケーションを図り、引きこもりや孤独死などを防止することとした。

3. 具体的な取組内容

自治会をはじめ地区内各種団体と、高齢者の興味について検討したところ、郷土愛からくる知恵や知識、技術などの披露伝承ではなかろうかと結論づけ、新規事業をするのではなく、既存事業に高齢者が参加したくなる要素を取り入れることとした。

(1) 地域学校事業

邑南町では子ども達を“将来の良き隣人”と位置付け、ふるさとに誇りを持てるよう各公民館で地域学校事業に取り組んでいる。市木公民館では「川遊び」をテーマに事業展開しており、川釣りやつかみ捕りなどの自然体験の場を提供している。



子ども達に好評のつかみ捕り

この事業では、高齢者が子どもだった頃の遊び方や、川の水質汚染による川魚の種類の減少なども話していただき、子ども達に自然体験のみではなく環境についても分かりやすく説明していただいた。

(2) 観光スタンプラリー大会

観光スタンプラリー大会は数年前から、市木小学校児童が地域活性化を願い企画継続している事業で、地域の歴史や文化伝統などの魅力を高齢者から学び、観光マップを作成してスタンプラリーを開催している。今年度はこの取り組みをより多くの方に知ってもらうため公民館まつりで開催し、参加者へ地域の魅力をガイドした。この事業では、高齢者と

児童をつなぐふるさと教育ができた。



ブース毎に説明する児童達

(3) 市木公民館まつり

毎年秋に、地区内各種団体や公民館自主教室の成果披露の場として公民館まつりを開催している。園児や児童のステージ発表の他に市木の歴史や文化伝統を学ぶ基盤となる「市木カルタ」の大会も催している。



白熱する市木カルタ大会

(4) ビッグひな祭り文化展

毎年3月上旬にオープニングイベントを開き、その後3週間程度の展示期間中には県内外から400名程度の観覧者が訪れる。

11段にもなる壮大なひな壇には100体以上の人形が並べられ、ひな壇周辺には高齢者の知恵と技術を駆使した竹細工や手芸作品が彩りを添える。観覧者の感想や意見を参考に振り返り反省のもと、次年度の作品製作に励んでいる。



高齢者の知恵と技術の結集

(5) 伝統料理教室

平成25年度の公民館まつりで、昭和30年代に秋祭りで食べられていた伝統料理を展示したところ、非常に好評で是非、作り方を習いたいと要望があり、毎年開催している。

保護者世代の参加も多く、食文化を継承することができた。



展示ブースに飾った伝統料理と説明

4. 評価と成果

地域づくりに熱心な地域リーダーや各種団体と地域課題を共有し、課題解決のために地域リーダーを中心に各行事への参加を呼びかけた結果、これまで地域や公民館の行事には参加することのなかった高齢者を、見るようになるようになった。また行事に参加できるようになった高齢者が次の声かけ役を担うようになり、徐々にではあるが参加者が増えてきた分、地域や公民館行事に活気がでてきた。

5. 今後の課題と見通し

より大きな効果を出すためにも、地区内各種団体や地域リーダーとの連携をより強くし独居世帯や行事に参加していない高齢者を把握し地道に声かけをして、地区内でのコミュニケーションを図り、地域全体で見守りができる体制づくりが必要となる。本事業に取り組み始めて2年が経過し高齢者の興味や関心が郷土愛からくる地域の歴史や文化伝統の学習と継承だと分かった。次年度は、今年度末から連続性をキーワードに、高齢者の知恵や知識がなければ出来上がらない紙芝居製作に取り組んでおり、これを完成させたい。

(文責：主任 高橋 創)